

入 札 説 明 書

平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務

国立水俣病総合研究センター

はじめに

平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務に係る入札等については、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）、契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）、その他の関係法令に定めるもののほか、この入札説明書によるものとする。

1 契約担当官等

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 吉成 信行

2 調達内容

(1) 件名 平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務

(2) 特質等 別添仕様書による他、入札説明会にて詳細を説明する。

(3) 業務期間 平成23年4月1日から平成24年3月31日

(4) 業務区域 熊本県水俣市浜4058-18 国立水俣病総合研究センター

(5) 入札方法

落札者の決定は、最低価格落札方式をもって行うので、

イ 入札者は、業務に係る経費のほか、一切の諸経費を含め契約金額を見積もるものとする。

ロ 落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の5パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数がある時は、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の105分の100に相当する金額を記載した入札書を提出しなければならない。

(6) 入札保証金及び契約保証金 免除

3 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令第70条の規定に該当しない者であること。なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。

(2) 予算決算及び会計令第71条の規定に該当しない者であること。

(3) 工事請負契約等に係る指名停止等措置要領について（平成13年環境会第9号）に基づく指名停止を受けている期間中でないこと。

(4) 平成22・23・24年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の中で営業品目「建物管理等各種保守管理」において、開札時まで「A」、

「B」又は「C」級に格付けされ、九州・沖縄地域の競争参加資格を有する者であること。

(5) フェライト処理装置、有機系廃液噴霧燃焼処理装置及び水銀廃液処理装置を有する実験廃水処理施設の維持管理に係る業務実績を有する者であること。

(6) 入札説明書の交付を受け、入札説明会に参加した者であること。

4 契約条項を示す場所等

(1) 契約条項を示す場所

〒867-0008 熊本県水俣市浜4058-18

国立水俣病総合研究センター総務課経理係 榎屋 岳洋

電話 0966-63-3111 FAX0966-61-1145

(2) 入札説明会の日時及び場所

日時 平成23年3月22日(火) 16時00分から

場所 国立水俣病総合研究センター内会議室

熊本県水俣市浜4058-18

5 競争執行の日時、場所等

(1) 入札・開札の日時及び場所

日時 平成23年3月29日(火) 16時00分

場所 国立水俣病総合研究センター内会議室

熊本県水俣市浜4058-18

(2) 入札書の提出方法

ア. 入札書は、(1)の日時までに電子入札システムにより提出するものとする。ただし、書面により入札書を提出することを希望する場合は、平成23年3月25日(金)12時までに、環境省入札心得に定める様式2による書面を4(1)の場所に持参または郵送(書留郵便等の配達記録が残るものに限る。)により提出すること。

イ. 書面により入札書を提出する場合は、(1)の日時及び場所に、環境省入札心得に定める様式1による入札書を持参すること。電話、FAX、郵送等による提出は認めない。なお、入札書の日付は、入札日を記入すること。

ウ. 入札者は、その提出した入札書の引換、変更又は取消しをすることができない。

(3) 入札の無効

本入札説明書に示した競争参加資格のない者又は入札条件に違反した者の提出した入札書は無効とする。

6 落札者の決定方法

- (1) 有効な入札書を提出した入札者であって、当該入札者の入札価格が予算決算及び会計令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内であり、かつ、最低価格をもって入札を行った者を落札者とする。
- (2) 最低価格により落札者となった場合でも、当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって申込みをした他の者のうち、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とすることがある。

7 入札に関する質問の受付

- (1) この入札説明書、仕様書等に関する質問がある場合は、次に従い書面（様式は任意）により提出すること。
 - イ 提出期限 平成23年3月23日（水）12時まで
（持参の場合は12時から13時を除く）
 - ロ 提出場所 4（1）の場所
 - ハ 提出方法 持参又はFAXによって提出すること。
- (2) (1)の質問に対する回答は、平成23年3月24日（木）17時までにFAXにより行う。

8 競争参加資格確認関係書類

- (1) 競争参加資格確認関係書類は、別添一1に掲げるとおりとする。
- (2) 競争参加資格確認関係書類の作成に要する費用は、提出者の負担とする。
- (3) 支出負担行為担当官は、提出された競争参加資格確認関係書類を競争参加資格の確認以外に提出者に無断で使用することはない。
- (4) 受領した書類等は返却しない。
- (5) 入札者は、提出した競争参加資格確認関係書類の引換え、一部もしくは全部差し替え及び再提出、変更又は取消しをすることができない。
- (6) 競争参加資格確認関係書類の受領期限は、平成23年3月25日（金）12時とする。
- (7) 開札日の前日までの間において、支出負担行為担当官から競争参加資格確認等に関し説明を求められた場合には、これに応じなければならない。
- (8) 入札参加資格審結果の回答
平成23年3月28日（月）17時まで
なお、審査結果通知書の発出にあたっては、原本の郵送に先行して指定された宛先にFAXによる事前送信を行う。

9 入札結果の公表

(1) 落札者が決定したときは、入札結果は、落札者を含め入札者全員の商号又は名称及び入札価格について、開札場において発表する。

(2) 電子入札システムの操作及び障害発生時の問い合わせ先

環境省電子入札システムホームページアドレス <http://www.e-procurement.env.go.jp/>

ヘルプデスク 03-5348-4006

ただし、入札の締め切り時間が切迫している等、緊急を要する場合には、前記4

(1) の場所に連絡すること。

○様式等

別紙 環境省入札心得

別添1 競争参加資格確認関係書類

別添2 契約書(案)

別添3 仕様書

(別紙)

環境省入札心得

1. 趣旨

環境省の所掌する契約（工事に係るものを除く。）に係る一般競争又は指名競争（以下「競争」という。）を行う場合において、入札者が知り、かつ遵守しなければならない事項は、法令に定めるものの他、この心得に定めるものとする。

2. 入札説明書等

- (1) 入札者は、入札説明書及びこれに添付される仕様書、契約書案、その他の関係資料を熟読のうえ入札しなければならない。
- (2) 入札者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。
- (3) 入札者は、入札後、(1)の書類についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

3. 入札保証金及び契約保証金

環境省競争参加資格（全省庁統一資格）を保有する者の入札保証金及び契約保証金は、全額免除する。

4. 入札書の書式等

入札者は、様式1による入札書を提出しなければならない。ただし、電子入札システムにより入札書を提出する場合は、同システムに定めるところによるものとする。

なお、入札説明書において「電子入札システムにより入札書を提出すること」と指定されている入札において、様式1による入札書の提出を希望する場合は、様式2による書面を作成し、入札説明書で指定された日時までに提出しなければならない。

5. 入札金額の記載

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の5パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の105分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

6. 入札書の提出

- (1) 書面による入札書は、封筒に入れ封印し、かつその封皮に氏名（法人の場合はその名称又は商号）、宛名（支出負担行為担当官 国立水俣病総合研究センター総務課長 殿と記載）及び「平成23年3月29日開札〔平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務〕の入札書在中」と朱書きし

て、入札日時までに提出すること。また、競争参加資格を証明する書類を入札説明書で指定する日時までに提出すること。

- (2) 電子入札システムにより入札する場合は、同システムに定める手続に従い、入札日時までに入札書を提出すること。通信状況により提出期限内に電子入札システムに入札書が到着しない場合があるので、時間的余裕を持って行うこと。また、競争参加資格を証明する書類をスキャナ等により電子データ化したものを、電子入札システムの手順に応じて、入札説明書で指定する日時までに提出すること。

7. 代理人による入札及び開札の立会い

代理人により入札を行い又は開札に立ち会う場合は、代理人は、様式3による委任状を持参しなければならない。また、代理人が電子入札システムにより入札する場合には、同システムに定める委任の手続きを終了しておかなければならない。

8. 代理人の制限

入札者又はその代理人は、当該入札に係る他の入札者の代理人を兼ねることができない。

9. 入札の無効

次の各項目の一に該当する入札は、無効とする。

- ① 競争に参加する資格を有しない者による入札
- ② 指名競争入札において、指名通知を受けていない者による入札
- ③ 委任状を持参しない又は電子入札システムに定める委任の手続きを終了していない代理人による入札
- ④ 書面による入札において記名押印（外国人又は外国法人にあつては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。）を欠く入札
- ⑤ 金額を訂正した入札
- ⑥ 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- ⑦ 明らかに連合によると認められる入札
- ⑧ 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね又は2者以上の代理をした者の入札
- ⑨ 入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札にあつては、証明書が契約担当官等の審査の結果採用されなかった入札
- ⑩ 入札書の提出期限までに到着しない入札
- ⑪ その他入札に関する条件に違反した入札

10. 入札の延期等

入札参加者が相連合し又は不穩の行動をする等の場合であつて、入札を公正に執行することができない状態にあると認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し若しくはとりやめることがある。

11. 開札の方法

- (1) 開札は、入札者又は代理人を立ち合わせて行うものとする。ただし、入札者又は代理人の立会いがない場合は、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせて行うことができる。
- (2) 電子入札システムにより入札書を提出した場合には、入札者又は代理人は、開札時刻に端末の前で待機しなければならない。
- (3) 入札者又は代理人は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書又は委任状を提示しなければならない。
- (4) 入札者又は代理人は、開札時刻後においては開札場に入場することはできない。
- (5) 入札者又は代理人は、契約担当官等が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。
- (6) 開札をした場合において、予定価格の制限内の価格の入札がないときは、直ちに再度の入札を行うものとする。電子入札システムにおいては、再入札を行う時刻までに再度の入札を行うものとする。なお、開札の際に、入札者又は代理人が立ち会わず又は電子入札システムの端末の前で待機しなかった場合は、再度入札を辞退したものとみなす。

12. 落札者となるべき者が2者以上ある場合の落札者の決定方法

当該入札の落札者の決定方法によって落札者となるべき者が2者以上あるときは、直ちに当該者にくじを引かせ、落札者を決定するものとする。なお、入札者又は代理人が直接くじを引くことができないときは、入札執行事務に関係のない職員がこれに代わってくじを引き、落札者を決定するものとする。

13. 落札決定の取消し

落札決定後であっても、入札に関して連合その他の事由により正当な入札でないことが判明したときは、落札決定を取消すことができる。

14. 契約書の提出等

- (1) 落札者は、契約担当官等から交付された契約書に記名押印（外国人又は外国法人が落札者である場合には、本人又は代表者が署名することをもって代えることができる。）し、落札決定の日から10日以内（期終了の日が行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条に規定する日に当たるときはこれを算入しない。）に契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等が必要と認めた場合は、この期間を延長することができる。
- (2) 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

15. 契約手続において使用する言語及び通貨

契約手続において使用する言語は日本語とし、通貨は日本国通貨に限る。

入 札 書

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所

会 社 名

代表者氏名

印

(復) 代理人

印

注) 代理人又は復代理人が入札書を持参して入札
する場合に、(復) 代理人の記名押印が必要。
このとき、代表印は不要 (委任状には必要)。

下記のとおり入札します。

記

- 1 入札件名 : 平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理
業務
- 2 入札金額 : 金額 _____ 円
- 3 契約条件 : 契約書及び仕様書その他一切貴省の指示のとおりとする。

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所
会 社 名
代表者氏名

印

電子入札案件の紙入札方式での参加について

下記入札案件について、電子入札システムを利用して入札に参加できないので、紙入札方式での参加をいたします。

記

1. 入札件名：平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務
2. 電子入札システムでの参加ができない理由
(記入例)・電子入札システムで参加する手続が完了していないため

委 任 状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

住 所
(委任者) 会 社 名
代表者氏名

印

代理人住所
(受任者) 所属(役職名)
氏 名

印

当社

を代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

- 1 平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務の入札に関する一切の件
- 2 1の事項にかかる復代理人を選任すること。

委 任 状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

代理人住所
(委任者) 所属(役職名)
氏 名

印

復代理人住所
(受任者) 所属(役職名)
氏 名

印

当社

を復代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務の入札に関する一切の件

別添-1

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

国立水俣病総合研究センター総務課長 殿

所在地

商号又は名称

代表者氏名

印

平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務に関する
競争参加資格確認書類の提出について

標記の件につきまして、次のとおり提出します。

- ① 環境省大臣官房会計課長から通知された等級決定通知書(全省庁統一資格)の写
- ② 入札説明書の「2. 競争参加資格」の(5)に規定する条件を満たすことを証する資料
(フェライト処理装置、有機系廃液噴霧燃焼処理装置及び水銀廃液処理装置を有する実験廃水処理施設の維持管理に係る業務実績を有することを証する契約書及び仕様書の写)

(担当者)

所属部署 :

氏 名 :

TEL/FAX :

E-mail :

契 約 書 (案)

支出負担行為担当官 国立水俣病総合研究センター 総務課長 吉成 信行 (以下「甲」という。) と (以下「乙」という。) とは、次の条項により平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務契約を締結する。

記

契約件名 平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務

契約金額 金 円 (内消費税及び地方消費税額 円)

[月額は別表のとおり]

(注) 消費税及び地方消費税は、消費税法第28条第1項及び第29条並びに地方税法第72条の82及び同条の83の規定に基づき契約金額に105分の5を乗じて得た額である。

契約保証金 免除

(信義誠実の原則)

第1条 甲及び乙は、信義に従って誠実にこの契約を履行するものとする。

(契約の目的)

第2条 乙は、別紙業務仕様書に基づき業務を行うものとし、甲は、乙にその対価を支払うものとする。

(履行場所)

第3条 履行場所は次のとおりとする。

国立水俣病総合研究センター
熊本県水俣市浜4058-18

(契約期間)

第4条 契約期間は次のとおりとする。

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(権利義務の譲渡等)

第5条 乙は、この契約によって生じる権利又は義務を、第三者に譲渡又は承継させてはならない。

(秘密の保持)

第6条 甲及び乙は、この契約の履行に関し知り得た相手方の秘密に属する事項を他に漏らし、又は他の目的に使用してはならない。

(検査)

第7条 乙は、業務を完了した毎に業務終了後報告書を作成し、その旨を書面により甲に通知し甲の指定する検査職員の検査を受けなければならない。

2 甲は、前項の通知を受けたときは、その日から10日以内に検査を行わなければならない。

3 乙は、前項の検査に合格したときをもって業務を完了したものとする。

(契約金額の請求及び支払)

第8条 乙は、毎月の使用料を翌月速やかに請求するものとし、甲は適法な請求書を受領した日から30日以内に支払わなければならない。

2 甲は、自己の責に帰すべき理由により前項に規定する期間内に請求金額を支払わなかったときは、期間満了の日の翌日から起算して支払の日までの日数に応じ、請求金額に対して年3.1パーセントの割合で計算した遅延利息を速やかに乙に支払うものとする。ただし、その金額に100円未満の端数があるとき又はその金額が100円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切り捨てるものとする。

(損害賠償)

第9条 甲の故意又は重大な過失により装置に損害が生じた場合、乙は甲に対し損害賠償を請求することができるものとする。

この場合において、乙は当該損害に係る保険金を受領しているとき、又は受領する見込みがあるときは、当該保険金受領後、又は受領見込み額については、甲に請求しないものとする。

(危険負担)

第10条 乙は、本契約締結の時から成果品の引渡の時までにおいて、当該物件が、甲の責に帰することのできない事由により滅失又はき損した場合には、甲に対して契約金額の請求を行うことができないものとする。

(かし担保)

第11条 甲は、乙が本契約履行後に提出した成果品について、かくれたかしを発見した場合は、相当の期間を定めて乙に対してその成果品の補修を求め、又はこれに代えて損害の賠償を請求できるものとする。

(契約に関する紛争等の解決)

第12条 この契約に定めのない事項及びこの契約に関する紛争については、甲乙協議して定めるものとする。

この契約の締結の証として、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各自1通を保有する。

平成 年 月 日

(甲) 熊本県水俣市浜4058-18
支出負担行為担当官
国立水俣病総合研究センター
総務課長 吉成 信行

(乙) _____

(別 表)

4月	円 (円)	10月	円 (円)
5月	円 (円)	11月	円 (円)
6月	円 (円)	12月	円 (円)
7月	円 (円)	1月	円 (円)
8月	円 (円)	2月	円 (円)
9月	円 (円)	3月	円 (円)
合計		円 (円)	

() 書きは消費税及び地方消費税の額 (内数)

平成23年度国立水俣病総合研究センター特殊廃液処理施設運転管理業務仕様書

1. 業務の目的

国立水俣病総合研究センター（以下、「国水研」という。）に設置している特殊廃液処理施設の保守及び点検を行うとともに、特殊廃液処理施設において国水研から排出される廃液の処理及びフィルターや実験動物の死骸等の有害固形物の焼却処理を行うことを目的とする。

2. 業務の内容

国水研では、特殊廃液処理施設として特殊廃液処理棟内に希薄系排水処理装置と濃厚廃液処理装置とを設置しており、本業務では、希薄系排水処理装置の保守・点検、濃厚廃液処理装置による廃液処理及び保守・点検を実施する。

(1) 希薄系排水処理装置の保守・点検の実施

国水研内の特殊廃液処理棟内に設置される希薄系排水処理装置の保守・点検として以下の業務を行う。なお、希薄系排水処理装置の設備概要については別紙1のとおりであり、24時間365日稼働している。

①希薄系排水処理装置の保守点検の実施

別紙2に示した点検項目及び点検内容について月1回点検を実施し、点検終了後に報告書を提出すること。

点検により設備の不具合が発見された場合は、速やかに国水研担当者に報告し、その対応については両者間で協議し決定するものとする。

②水銀モニタリング装置の薬品調整

水銀モニタリング装置（型式：オンライン水銀連続測定装置 マーキュリー ARA-6）において必要となる試薬を調整し、水銀モニタリング装置が適切に稼働するよう調整を行う。

水銀モニタリング装置において必要となる試薬及びその分量等については、別紙3のとおりである。

③希薄系排水処理に必要な薬品の調合

希薄系排水処理に必要な試薬を調整し、希薄系排水処理装置が適切に稼働するよう調整を行う。

希薄系排水処理に必要な試薬及びその分量、希薄系排水処理装置への供給方法等については、別紙4のとおりである。

④希薄系排水処理施設の処理水のサンプリング及び分析業務

希薄系排水処理施設の処理水を指定の箇所においてサンプリングを行い、サンプリングした処理水の水質分析を行う。

サンプリング地点、サンプリング頻度及び分析項目については、別紙5のとおりである。

⑤その他上記の業務遂行に必要な付帯業務

①～④の業務の遂行に必要な付帯業務が発生した場合には、国水研担当者と協議のうえ対応を決定すること。

(2) 濃厚廃液処理装置による廃液の処理及び保守点検

国水研内の特殊廃液処理施設に設置されている濃厚廃液処理装置により国水研から排出される濃厚廃液の処理を行う。具体的には、以下の①から④の業務を実施する。

業務の実施時期については、国水研担当者が指定する時期とし、年3回程度（1回6日間程度）実施し、各回とも以下の業務を実施することとする。

①濃厚廃液処理装置運転前後の施設点検

濃厚廃液処理装置の稼働前及び稼働後には施設の点検を実施することにより、処理装置の不具合の有無を確認し、確認の結果、処理装置に不具合が認められた場合には不具合箇所を特定し不具合内容の報告を行うこと。不具合箇所への対応については国水研担当者と協議のうえ対応を決定すること。

処理業務の実施に際しては特殊廃液処理棟内の作業場の整理整頓に努め、各回の処理業務終了時には作業場の清掃を実施すること。

処理業務終了後には、処理日程、処理結果・特記事項、薬品ほか次回必要品、廃液処理量、薬品使用量、作業日報、処理廃液リスト、無機系記録計チャート紙、有機系記録計チャート紙、分析報告書を含む業務報告書を作成し提出すること。

②水銀モニタリング装置の薬品調整

水銀モニタリング装置（型式：水銀ガスモニター マーキュリー EM-4）において必要となる試薬を調整し、水銀モニタリング装置が適切に稼働するよう調整を行う。

水銀モニタリング装置において必要となる試薬及びその分量等については、別紙3のとおりである。

③無機系廃液の処理

濃厚系廃液処理装置のうち無機系廃液処理装置により、以下の1)～3)の廃液の処理を実施する。無機系廃液処理装置の装置概要及び各廃液の処理手順については別紙6のとおりである。

- 1) 水銀廃液処理
- 2) ヒ素・リン酸処理
- 3) 重金属処理

④有機系処理装置における処理

濃厚系廃液処理装置のうち有機系処理装置により、以下の1)～2)の処理を実施する。有機系処理装置の装置概要及び各廃液の処理手順については別紙7のとおりである。

- 1) 廃液媒処理
- 2) 有害固型物処理

⑤濃厚廃液処理に必要な薬品の調合

濃厚廃液処理に必要な試薬を調整し、濃厚廃液処理装置が適切に稼働するよう調整を行う。

濃厚廃液処理に必要な試薬及びその分量、において必要となる試薬及び濃厚廃液処理装置への供給方法等については、別紙8のとおりである。

⑥濃厚廃液処理水のサンプリング及び分析業務

濃厚廃液処理業務の実施期間ごとに処理業務終了後に濃厚廃液処理装置から排出される処理水について以下の1)及び2)の処理水について指定の箇所でのサンプリングを行い、水質の分析を行う。

サンプリング地点、サンプリング頻度及び分析項目については、別紙9のとおりである。

- 1) 水銀処理水[分析項目：総水銀、アルキル水銀化合物]
- 2) 重金属処理水[pH、鉛及びその化合物、カドミウム及びその化合物、六価クロム化合物、ヒ素及びその化合物、総水銀、セレン及びその化合物]

⑦濃厚廃液処理業務の作業時間

作業時間は以下のとおりとする。以下の時間によることができない場合には、国水研担当者に報告し、了解を得ること。

月曜日	13:00～17:00
火曜日から金曜日	8:30～17:00
土曜日	8:30～12:00

(3) 業務従事者

業務従事者は装置の運転及び点検並びに廃棄物の処理等の業務に十分な知識、能力を有する者で、実験廃水処理施設においてフェライト処理業務、噴霧燃焼処理業務及び水銀廃液処理業務に1年以上の経験及び実績を有する者で以下の資格のいずれか2つ以上を有する者とする。

- ①危険物取扱主任者（甲及び乙）
- ②特定化学物質等作業主任者
- ③有機溶剤作業主任者
- ④2級ボイラー技士
- ⑤ダイオキシン類作業従事者特別教育

請負者は、業務従事者の名簿を作成し、国水研担当者に提出するものとする。

(4) 異常時・緊急時の対応等

- ①保守点検等において何らかの問題が発生した場合は、速やかにその原因を究明し、改善策を提案すること。改善策への対応は、国水研担当者と協議のうえ決定する。

なお、応急的な修理、措置等が必要な場合は国水研担当者と協議のうえ必要な対応を行うこと。

このほか、本仕様書の範囲を超える事故の発生又は故障を発見した場合には、直ちに国水研担当者に報告の上、修繕計画書（機器仕様、機器図、積算に必要な資料等を添付）を作成して提出すること。

- ②特殊廃液処理施設の運転中（希薄系排水処理装置の稼働中、濃厚廃液処理装置の稼働中）に設備の不具合等が発生した場合には請負者は直ちに必要な措置を講じること。このため、設備の不具合等の発生時において国水研担当者からの通知後3時間以内に緊急対応が可能となる業務実施体制を構築すること。

(5) その他

- ①運転に必要な資材、薬品等は国水研において準備する。
- ②請負者は国水研に対し、必要に応じて運転管理データ等の提示を要求できるものとし、国水研はこの要求に応じるものとする。
- ③本業務の実施にあたっては各設備の仕様及び取扱い方法を熟知するとともに、本処理設備製造者に詳細な処理手順についての教育訓練を受けたうえで業務を実施すること。

3. 業務実施期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日

4. 情報セキュリティの確保

請負者は、下記の点に留意して、情報セキュリティを確保するものとする。

(1) 請負者は、請負業務の開始時に、請負業務に係る情報セキュリティ対策とその実施方法及び管理体制について国水研担当官に書面で提出すること。

(2) 請負者は、国水研担当官から要機密情報を提供された場合には、当該情報の機密性の格付けに応じて適切に取り扱うための措置を講ずること。

また、請負業務において請負者が作成する情報については、国水研担当官からの指示に応じて適切に取り扱うこと。

(3) 請負者は、環境省情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が不十分と見なされるとき又は請負者において請負業務に係る情報セキュリティ事故が発生したときは、必要に応じて国水研担当官の行う情報セキュリティ対策に関する監査を受け入れること。

(4) 請負者は、国水研担当官から提供された要機密情報が業務終了等により不要になった場合には、確実に返却し又は廃棄すること。

また、請負業務において請負者が作成した情報についても、国水研担当官からの指示に応じて適切に廃棄すること。

(5) 情報システムを構築・改良する業務にあつては、請負者は、環境省情報セキュリティポリシーに準拠したシステムを構築すること。

(6) 請負者は、請負業務の終了時に、本業務で実施した情報セキュリティ対策を報告すること。

(参考) 環境省情報セキュリティポリシー

<http://www.env.go.jp/other/gyosei-johoka/sec-policy/full.pdf>

7. その他

(1) 請負者は、本仕様書に疑義が生じたとき、本仕様書により難い事由が生じたとき、あるいは本仕様書に記載のない細部については、国水研担当官と速やかに協議しその指示に従うこと。

(別添)

1. 報告書の仕様及び記載事項

報告書の仕様は、平成13年2月閣議決定「環境物品等の調達に関する基本方針」(平成23年2月4日変更。以下「基本方針」という。)に従うこと。

なお、裏表紙に古紙パルプ配合率等その他基本方針の「印刷」に係る判断基準のうち該当する事項について明記するものとする。また、可能な限り市中回収古紙を含む再生紙を使用するよう配慮すること。但し、リサイクル適性の表示は以下の通りとする。

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可

本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料[Aランク]のみを用いて作製しています。

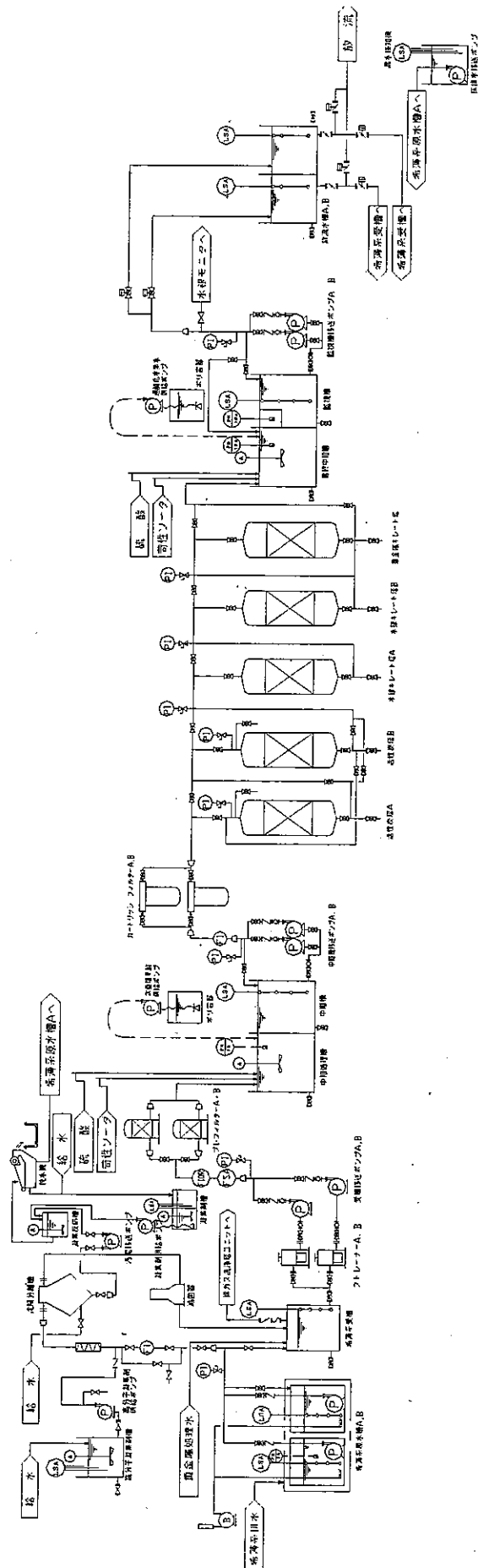
なお、リサイクル適性が上記と異なる場合は環境省担当官と協議の上、基本方針(<http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/kihonhoushin.html>)を参考に適切な表示を行うこと。

別紙1-1

希薄系排水処理装置の装置概要（24時間×365日稼働）

希薄系排水の処理方法

希薄系排水に凝集剤を添加し、凝集沈殿させる。凝集沈殿後の上澄水に次亜塩素酸ソーダ（固形）を通液させ、フィルターにて不純物をろ過する。pHを中性にし、次亜塩素酸ソーダ（液体）を添加し、フィルター・活性炭・有機水銀キレート樹脂・無機水銀キレート樹脂・重金属キレート樹脂に通液させ吸着処理をする。通液後、pHを中性にし、水銀濃度を測定する。水銀濃度測定結果が0.5ppb未満の場合は、放流。0.5ppb以上の場合、希釈受槽へ返送し、再処理となる。



	図面番号	
	図面名	
	図面内容	プロシート
		FREE

別紙2 希薄系排水処理装置点検項目及び点検内容

計器類名称 & Tag No	作業内容
原水槽pH計 増設	pH計の校正 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
中和処理槽pH計	
最終中和槽pH計	
監視槽pH計	
排ガス洗浄槽pH計	
原水槽揚水ポンプ圧力計	指示値、指示値による異常確認 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
受槽移送ポンプ圧力計	
受槽移送ポンプ積算計	
中継槽移送ポンプ圧力計	
中継槽移送ポンプ流量計	
活性炭塔A入口圧力計	
活性炭塔B入口圧力計	
水銀キレート塔A入口圧力計	
水銀キレート塔B入口圧力計	
重金属キレート塔入口圧力計	
監視槽移送ポンプ圧力計	清掃 指示値、指示値による異常確認 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
原水槽揚水ポンプ流量計	
受槽移送ポンプ流量計	
排ガス洗浄ポンプ流量計	手動・自動運転確認、異常音・振動・発熱確認 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
曝気ブロー 増設	
中和処理槽攪拌機 A-403	
中継槽移送ポンプA P-404A	
中継槽移送ポンプB P-404B	
最終中和処理槽攪拌機 A-405	
監視槽移送ポンプA P-406A	
監視槽移送ポンプB P-406B	
高分子凝集剤供給ポンプ 増設	
中和処理槽NaOH供給ポンプ P-501D	
最終中和槽NaOH供給ポンプ P-501E	
中和処理槽硫酸供給ポンプ P-502C	
最終中和槽硫酸供給ポンプ P-502D	
次亜塩素酸供給ポンプ P-410	
最終中和槽過酸化水素注入ポンプ P-412	
最終中和槽曝気ブロー B-413	
給水ポンプ(1号)	
給水ポンプ(2号)	
排ガス洗浄ファン	
排ガス洗浄ポンプ	

別紙2 希薄系排水処理装置点検項目及び点検内容

計器類名称 & Tag No	作業内容
希薄系原水槽揚水ポンプA P-401A	手動・自動運転による動作確認 動作時の異常音・振動・発熱等の確認 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
希薄系原水槽揚水ポンプB P-401B	
希薄系原水槽A TK-401A	流入部かご清掃 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
希薄系原水槽B TK-401B	
沈降分離槽 増設	浮遊物除去 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
希薄系受槽 TK-402	ストレーナー清掃(A・B) 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
フィルターA 増設	フィルター交換 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
フィルターB 増設	
カートリッジフィルターA CF-401A	
カートリッジフィルターB CF-401B	
活性炭塔A T-401A	逆先 液漏れ、腐食、変形、取付状態等に異常確認
活性炭塔B T-401B	
水銀キレート塔A T-402A	
水銀キレート塔B T-402B	
重金属キレート塔 T-403A	
オンライン水銀連続測定装置(ARA-6)	試薬補充、試料水送液異常、動作確認 腐食、エラー等の確認
中和処理槽 TK-403	液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
最終中和槽 TK-405	
監視槽 TK-406	
放流水槽A TK-407A	
放流水槽B TK-407B	
給水タンク	
排ガス洗浄塔	
排ガス洗浄槽	洗浄水入替え 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
滅菌器 増設	滅菌剤補給 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
高分子凝集剤槽 増設	凝集剤補給 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
苛性ソーダ槽 TA-501	NaOH補給 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
硫酸槽 TA-502	硫酸補給 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
次亜塩素酸ホリ容器	次亜塩素酸ソーダ補給 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認

別紙2 希薄系排水処理装置点検項目及び点検内容

計器類名称 & Tag No	作業内容
過酸化水素ポリ容器	H2O2補給 液漏れ、腐食、変形、取付状態等の異常確認
脱水機	手動・自動運転確認、異常音・振動・発熱確認 液漏れ、腐食、変形、取付状態等に異常確認 凝集剤補充
汚泥移送ポンプ	
凝集剤攪拌機	
凝集剤供給ポンプ	
凝集反応槽攪拌機	
操作盤(全般)	外・内部に腐食、配線類に発熱の痕跡等の確認 ランプ、プザー、スイッチ類動作確認
監視盤(全般)	外・内部に腐食、配線類に発熱の痕跡等の確認 記録計・モニター等の動作確認 記録紙、インクボン交換

別紙 3

水銀モニタリング装置に必要な薬品の調合

薬品名称	調合比率
NaOH (0.1N)	苛性ソーダ粉末 4g+蒸留水 1L
K ₂ S ₂ O ₈ (5%) (ペルオキシ二硫酸カリウム溶液)	ペルオキシ二硫酸カリウム 50g+蒸留水 1L
KMnO ₄ (5%) (過マンガン酸カリウム溶液)	過マンガン酸カリウム 50g+蒸留水 1L
H ₂ SO ₄ (1+1)	購入試薬での補充
NH ₂ OH・HCL (8%) (塩酸ヒドロキシルアミン溶液)	塩酸ヒドロキシルアミン溶液 80g+蒸留水 1L
塩化スズ (II) 溶液	購入試薬での補充

* 補充箇所：特殊廃液処理棟 2 階フロア監視室水銀モニタリング装置下

別紙 4

希薄系排水処理に必要な薬品の調合

薬品名称	調合比率	補充箇所 特殊廃液処理棟内
凝集剤：KA-005	水 1L+凝集剤(KA-005)3g	高分子凝集剤槽 (1階フロア)
硫酸 (約 10%)	硫酸 (70%) 25kg+水 140L	硫酸槽 (2階フロア)
苛性ソーダ(約 10%)	苛性ソーダ(48%)20kg+水 100L	苛性ソーダ槽 (2階フロア)
過酸化水素水(35%)	同じ濃度の容器ごとの入替	最終中和槽横ポリ容器 (2階フロア)
次亜塩素酸ソーダ(12%)	同じ濃度の容器ごとの入替	中和処理槽横ポリ容器 (2階フロア)
凝集剤：AP335	水 1L+凝集剤(AP335)1g	凝集剤槽 (2階フロア)

別紙5-1

希薄系排水処理施設の処理水採水地点及び分析項目

項	採水頻度	分析項目	採水地点
1	1回/年	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH 2. BOD 3. COD 4. SS 5. ノルマルヘキサン抽出物質(鉱物油) 6. ノルマルヘキサン抽出物質(動植物油) 7. フェノール類 8. 銅 9. 亜鉛 10. 溶解性鉄 11. 溶解性マンガン 12. クロム 13. 大腸菌群数 14. 総窒素 15. 総リン 	<p>屋外 国水研最終放流枡</p>
2	1回/月 11月/年	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH 2. 水銀及びその化合物 3. アルキル水銀化合物 4. カドミウム及びその化合物 5. 砒素及びその化合物 6. 四塩化炭素 7. ベンゼン 8. ジクロロメタン 9. シアン化合物 10. 六価クロム化合物 11. 鉛及びその化合物 12. セレン及びその化合物 	<p>特殊廃液処理棟 2階フロア 希薄系排水処理施設 放流水槽</p>

希薄系排水処理施設処理水の採水地点及び分析項目

項	採水頻度	分析項目	採水地点
3	1月/年 *2項未実施月	1. pH 2. 水銀及びその化合物 3. アルキル水銀化合物 4. カドミウム及びその化合物 5. 砒素及びその化合物 6. 四塩化炭素 7. ベンゼン 8. ジクロロメタン 9. シアン化合物 10. 六価クロム化合物 11. 鉛及びその化合物 12. セレン及びその化合物 13. 有機リン化合物 14. PCB 15. トリクロロエチレン 16. テトラクロロエチレン 17. 1,2-ジクロロエタン 18. 1,1-ジクロロエチレン 19. シス-1,2 ジクロロエチレン 20. 1,1,1-トリクロロエタン 21. 1,1,2-トリクロロエタン 22. 1,3-ジクロロプロペン 23. アンモニア、アンモニウム化合物、 亜硝酸化合物、硝酸化合物 24. チウラム 25. シマジン 26. チオベンカルブ 27. ホウ素 28. フッ素	特殊廃液処理棟 2階フロア 希薄系排水処理施設 放流水槽

別紙6-1

無機系廃液の処理概要

1) 水銀廃液処理概要 (1 m³/バッチ)

有機系廃液処理装置洗煙水と水銀含有廃液を酸化分解槽へ投入し、加温下で過マンガン酸カリウムによる有機水銀の分解処理を行う。酸化分解完了後、静置・還元を行い、水銀吸着塔にて吸着処理を行う。処理水は分析を行い処理対象成分が基準値以下であることを確認し重金属系廃液処理へ移送する。

2) ヒ素処理概要 (200 L/バッチ)

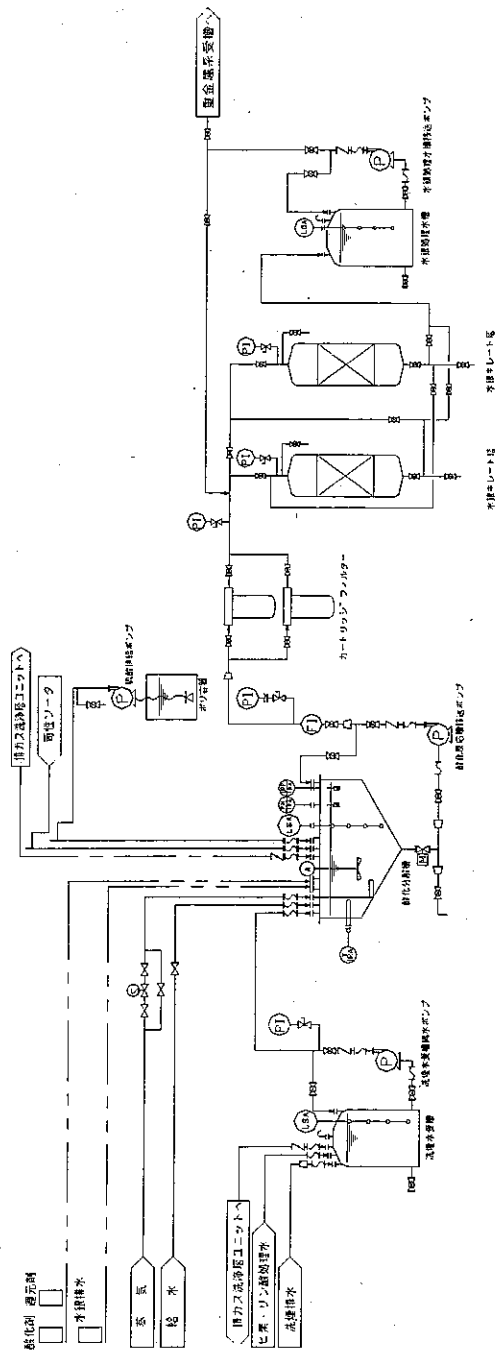
ヒ素含有廃液をマルチ処理槽へ投入し、硫酸第一鉄及び過酸化水素水にて無機のヒ素に分解処理を行う。分解処理完了後、凝集剤による沈殿処理にて処理水と沈殿物にわけける。沈殿物は脱水機にてろ過する。

3) リン酸処理概要 (200 L/バッチ)

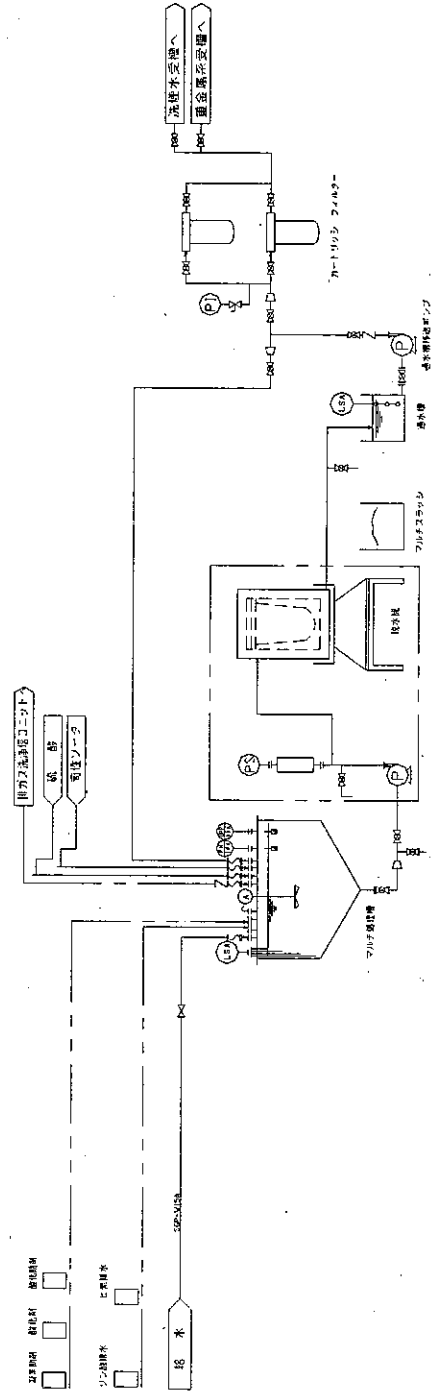
リン酸含有廃液をマルチ処理槽へ投入し、塩化カルシウムニ水和物、凝集剤にて凝集沈殿処理を行う。処理後の沈殿物は脱水機にてろ過する。

4) 重金属処理概要 (100 L/バッチ)

重金属廃液、酸アルカリ廃液、水銀処理水の混合廃液にてフェライト反応処理を行う。反応後の処理水を磁気分離機により個液分離する。分離後の処理水は中和処理し、分析を行い処理対象成分が基準値以下であることを確認し希薄系受槽へ移送する。分離後の沈殿物は、凝集剤添加後、ろ布にてろ過する。



水質処理



ヒ素・リン除去処理

図面番号	RR	FLEE
工程名	重金属不溶物	
設備名	重金属不溶物	
設備種別	重金属不溶物	
設備位置	重金属不溶物	
設備仕様	重金属不溶物	
設備材質	重金属不溶物	
設備容量	重金属不溶物	
設備重量	重金属不溶物	
設備寸法	重金属不溶物	
設備色相	重金属不溶物	
設備状態	重金属不溶物	
設備備考	重金属不溶物	
設備図面	重金属不溶物	
設備写真	重金属不溶物	
設備説明	重金属不溶物	
設備点検	重金属不溶物	
設備清掃	重金属不溶物	
設備修理	重金属不溶物	
設備廃棄	重金属不溶物	
設備更新	重金属不溶物	
設備その他	重金属不溶物	
設備担当者	重金属不溶物	
設備承認者	重金属不溶物	
設備承認日	重金属不溶物	
設備承認場所	重金属不溶物	
設備承認内容	重金属不溶物	
設備承認理由	重金属不溶物	
設備承認結果	重金属不溶物	
設備承認備考	重金属不溶物	

別紙 7 - 1

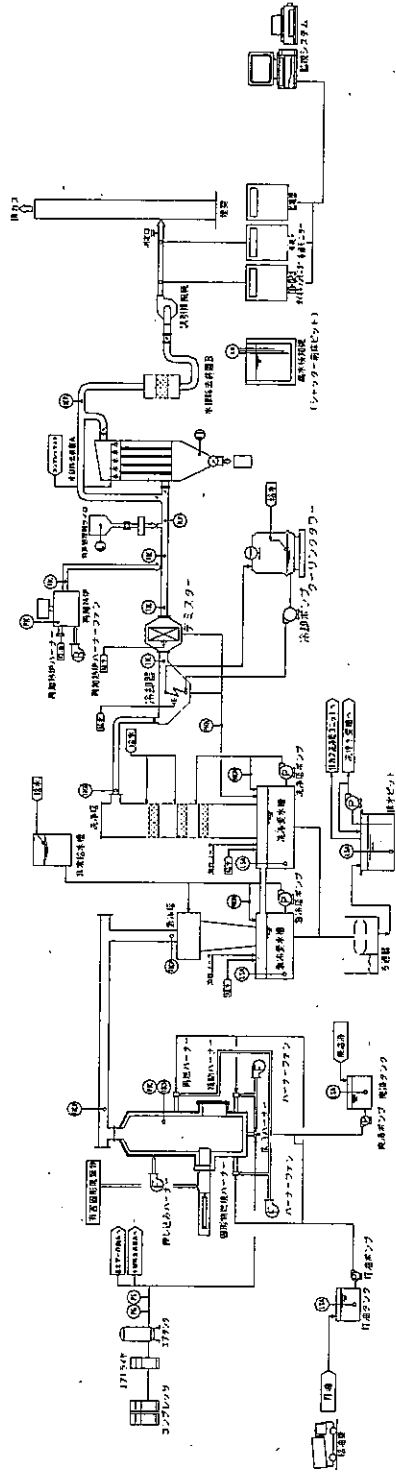
有機系廃液・固形廃棄物の処理概要

難燃性廃液・可燃性廃液（噴霧燃焼法にて処理：処理能力 10ℓ/H）

固形廃棄物（処理能力 10kg/H）

灯油を助燃料とし、焼却可能な温度まで昇温（800℃以上）し、廃液は霧化燃焼、固形廃棄物は強制燃焼とする。燃焼ガスは、急冷塔で冷却し、洗浄塔でガスを水洗浄し、冷却器、デミスターで水滴を除去。又、再加熱炉で熱風を発生させデミスター出口で燃焼ガスと混合し水分率を低減した後、水銀除去装置A、水銀除去装置Bで燃焼ガスをろ過する。

洗煙水は、水銀廃液処理装置にて処理する。



DRAWING		DATE		SCALE		SHEET	
GREEN		2000		1/100		1/1	
PROJECT		NO.		REV.		DATE	
00000		1000		001		2000	
DRAWN BY		CHECKED BY		APPROVED BY		DATE	
MUR		MUR		MUR		2000	
PROJECT NAME		PROJECT NO.		SHEET NO.		TOTAL SHEETS	
GREEN		00000		1/1		1/1	

別紙 8

濃厚廃液処理に必要な薬品の調合

薬品名称	調合比率	補充箇所 特殊廃液処理棟内
凝集剤：AP335	水 1L+凝集剤(AP335)1g	スラッジケース (使用分準備)
硫酸 (約 10%)	硫酸 (70%) 25kg+水 140L	硫酸槽 (2階フロア)
苛性ソーダ(約 10%)	苛性ソーダ(48%)20kg+水 100L	苛性ソーダ槽 (2階フロア)
塩化ヒドロキシルアミン	調合無	水銀廃液処理の工程で 使用する。
過マンガン酸カリウム	調合無	水銀廃液処理・重金属 廃液処理の工程で使用 する。
硫酸第一鉄	調合無	重金属廃液処理の工程 で使用する。
消泡剤	調合無	重金属廃液処理の工程 で使用する。
食塩	調合無	ボイラー軟水器の再生 に使用する。
灯油	調合無	有機・無機廃液処理の 工程で使用する。
消石灰	調合無	有機廃液処理の工程で 使用する。

別紙 9

濃厚廃液処理水の採水地点及び分析項目

項	採水頻度	分析項目	採水地点
1	水銀処理水	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水銀及びその化合物 2. アルキル水銀化合物 	特殊廃液処理棟 1階フロア 水銀廃液処理施設 処理水槽
2	重金属処理水	<ol style="list-style-type: none"> 1. pH 2. 鉛及びその化合物 3. カドミウム及びその化合物 4. 六価クロム化合物 5. 砒素及びその化合物 6. 水銀及びその化合物 7. アルキル水銀化合物 8. セレン及びその化合物 	特殊廃液処理棟 1階フロア 重金属廃液処理施設 処理水槽

